小　学　校

令和６年度

教育研究員研究報告書

国語

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究仮説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅳ　研究構想図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅴ　研究方法と内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

１　基礎研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

２　調査研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

３　検証授業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

低学年（第１学年）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

中学年（第４学年）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

高学年（第６学年）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

Ⅵ　研究のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

研究主題

説明的な文章において、自分の考えを形成する力を育てる指導法の工夫

～目的をもって読み、既有の知識や体験と結び付けて考える活動を通して～

Ⅰ　研究主題設定の理由

小学校学習指導要領国語（以下、「小学校学習指導要領」という。）では、全ての領域において、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。そして、令和５年度全国学力・学習状況調査では、初めて、読むことにおける考えの形成を問う問題が出題された。「令和５年度全国学力・学習状況調査　報告書」（文部科学省）（以下、「全国学力調査」という。）では、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」設問（小学校国語「読むこと」2設問四）において、東京都の正答率は 56.4％、東京都の無解答率は 10.8％であった。特に無解答率は、全国平均の 8.5％と比べ、2.3 ポイント高くなっている。これらの調査結果から、小学校学習指導要領に示された「Ｃ　読むこと(1)オ」（考えの形成）の指導事項が課題の一つではないかと考えた。

また、社会の変化がますます加速し、予測が難しい時代を迎える中で、児童・生徒には、問題解決能力や創造性など、これからの社会に必要とされる資質を身に付けることが求められている。また、生涯にわたって主体的に学び続ける力を育むことも重要である。そのために、「義務教育の在り方ワーキンググループ中間まとめ」（中央教育審議会初等中等教育分科会　令和５年 12 月）では、「学びの主導権を子供たちに委ねることにより、子供たちが、自らの学びを『自分事』として捉え、自発的に他者と関わりながら自分で学びを深めていくような学習活動」が重要だと述べられている。つまり、個別最適な学びを充実させ、協働的な学びを実現させていくことが求められている。

このような学びの姿勢は、国語科においても重要である。国語科において自らの学びを進めていくためには、説明的な文章の学習では、「目的をもって読むこと」が必要である。そして、そのことが主体的に自分の考えを形成していくことにつながると考えた。

そこで本研究では、研究員所属校の教員を対象に、「読むこと」（説明的な文章）に関する意識調査（以下、「意識調査」という。）を行い、教員の指導の実態について明らかにすることとした。「意識調査」の結果では、「『読むこと』での自分の考えを形成する力を育てるために手だてを工夫していますか。」という質問項目について肯定的に回答した教員の割合は全体の 84.0％であった。しかし、指導する際に、「考えの形成」において重要な「知識や経験と結び付けて自分の考えをもつ」ということを大切にして指導していると回答した教員の割合は 27.3％と低かった。このことから、「知識や経験と結び付けて自分の考えをもつ」ことを一層意識して指導することが重要であると考えた。

以上のことを踏まえて、小学校学習指導要領の「Ｃ　読むこと(1)オ」（考えの形成）の指導事項に研究の重点を置き、研究主題を「説明的な文章において、自分の考えを形成する力を育てる指導法の工夫」とし、研究副主題を「目的をもって読み、既有の知識や体験と結び付けて考える活動を通して」として研究を進めることとした。

Ⅱ　研究の視点

本研究の目的は、児童が「説明的な文章において、自分の考えを形成する力」を育てることである。「自分の考えを形成する」ことについて、小学校学習指導要領「C　読むこと」の学習過程「考えの形成」では、以下のように示されている。

「文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成することを示している。『考えの形成』とは、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既有の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくことである。」

「既有の知識」とは、他教科に関する知識や児童の生活経験で得た知識であると捉える。それに加えて、国語科の学習を通して得た知識である既習事項も、「考えの形成」の過程における既有の知識でもあると考える。

また、以下の指導事項を身に付けることができるよう示されている。

低学年：文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

中学年：文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

高学年：文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

この力を育てるために、本研究では、次の二点の視点から研究主題に迫ることとした。

1　目的を意識しながら学習に取り組むための工夫

(1)　児童にとって目的意識をもてる単元計画や言語活動の設定

児童が主体的に自分の考えを形成していくには、目的意識をもって文章を読むことが必要である。何のためにその教材文を読むのか、という目的を児童自身が自覚していなければ、主体的な読みにはつながらないからである。国語科の授業で身に付けた力を、さらにその後の言語活動で生かすことで、児童の達成感につなげることが重要であると考えた。

そこで、教材との出合いや単元で身に付けた力を発揮できるような言語活動を設定することなどにより、児童が目的を意識しながら学習に取り組めるようにした。

（主な工夫）

・児童が「おもしろそう」「読んでみたい」と感じることができる単元の導入
・児童にとって教材文が身近なものとなる具体物の活用
・目的意識の明確化及び目的意識が持続するための方法
・児童にとって魅力的で単元で身に付けた力を発揮できる言語活動の設定
・児童の発達の段階に応じた単元計画の作成
・既存の知識や体験と結び付けて考えるための単元計画における「考えの形成」の位置付け

2　「考えの形成」を充実させるための工夫

(1)　既有の知識や体験と結び付けて考えるための視点の明確化

「考えの形成」では、既有の知識や体験と結び付けて感想や考えをもったり、自分の考えをまとめたりすることが大切である。児童が既有の知識や体験と教材文とを関連付けて理解することで、より具体的かつ実感を伴った学びとなると考えたからである。また、「考えの形成」に至るまでの学習過程を通して児童が理解したことなどに基づいて、考えを形成する必要がある。

そこで、本研究では、「知識や体験と結び付けて考えるための視点」を「学習課題に対する根拠や理由となる具体例を引き出すためのもの」として位置付けた。その視点を児童に具体的かつ明確に提示したり、児童とともに共有して整理したりすることで、「考えの形成」が円滑に行えるようにした。

（主な工夫）

・知識や体験と結び付けて考えるための視点の明確化
・児童の発達の段階に応じた視点の提示方法
・児童とのやり取りをとおした視点の共有

(2)　既有の知識や体験を引き出すための資料の活用や場の設定

知識や体験が少ない児童にも、単元の学習中に一定の知識や体験を得られるようにする必要がある。児童によっては、既有の知識や体験の量に差があり、そのことが、「考えの形成」に影響していると考えられるからである。

そこで、児童によって異なる知識や体験を、「考えの形成」を図りたい内容と結び付けて、資料を収集・提示したり、場の設定をしたりするにより、どの児童も「考えの形成」を行えるようにした。

（主な工夫）

・単元の学習と関連した図書資料の活用
・学習内容を効果的に結び付ける他教科との関連（カリキュラム・マネジメント）
・資料収集、提示、場の設定を通じて、「考えの形成」を促進

Ⅲ　研究仮説

本研究では、前述した三点の手だてを講じることで、説明的な文章において自分の考えを形成することができる児童が育つであろうと考え、以下の研究仮説を設定した。

＜研究仮説＞

「読むこと」の領域において、児童が目的を意識しながら学習に取り組めるように、単元計画や言語活動を工夫し、「考えの形成」を充実させるための手だてを講じることによって、自分の考えを形成することができる児童が育つであろう。

Ⅳ　研究構想図

共通テーマ　全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現

【中央教育審議会答申】
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
（文部科学省　平成 28 年 12 月）
「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」

【東京都教育施策大綱】
（東京都教育委員会 令和３年３月）
「文章の意味を正確に理解する読解力、授業で学んだ知識を活用して自分の頭で考え、その考えを表現する力、対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し、新しい答えを生み出す力などを身に付けることが必要である。」

【今日的な教育課題】
「令和５年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の結果
・「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力」を問う設問（「読むこと」2四）
東京都正答率 56.4％、無解答率 10.8％
●文章を読んで分かったことと既有の知識や体験を結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。
●小学校学習指導要領「読むこと」の指導事項（オ）の重点指導が必要である。

【小学校学習指導要領国語】
C 読むこと(1)(オ)
・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。（第１学年及び第２学年）
・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。（第３学年及び第４学年）
・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。（第５学年及び第６学年）

【教員の意識の実態】
（令和６年 11 月意識調査実施）
対象：教育研究員（国語科）
所属校教員 125 人
・質問３「読むこと」（説明的な文章）での自分の考えを形成する力を育てるために、手だてを工夫していますか。
肯定的な回答率　84.0％
・質問４「読むこと」（説明的な文章）において「考えの形成」について指導する上で、どのようなことを大切にしていますか。
「説明的な文章の内容と、児童の知識や体験が結び付けられるようにすること」の回答率　27.3％
●教科の問題の調査結果と照らし合わせると、知識や体験と結び付けて考えられるようにするための指導の工夫が必要

《研究主題》

説明的な文章において、
自分の考えを形成する力を育てる指導法の工夫
～目的をもって読み、
既有の知識や体験と結び付けて考える活動を通して～

《目指す児童像》

［低学年］
文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる児童

［中学年］
文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる児童

［高学年］
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる児童

《研究仮説》

「読むこと」の領域において、児童が目的を意識しながら学習に取り組めるように、単元計画や言語活動を工夫し、「考えの形成」を充実させるための手だてを講じることによって、自分の考えを形成することができる児童が育つであろう。

研究主題に迫るための視点

視点１　目的を意識しながら学習に取り組むための工夫

①　児童にとって目的意識をもてる単元計画や言語活動の設定

視点２　「考えの形成」を充実させるための工夫

①　既有の知識や体験と結び付けて考えるための視点の明確化
②　既有の知識や体験を引き出すための資料の活用や場の設定

Ⅴ　研究方法と内容

１　基礎研究

「全国学力調査」や「東京都教育施策大綱」（東京都教育委員会）、「小学校学習指導要領」等を参考にして、「C　読むこと(1)オ」（考えの形成）に関連付けられる力を分析した。

２　調査研究

説明的な文章における「自分の考えを形成する力を育てる指導法の工夫」についての意識調査を教員に対して行った。その分析から、目的意識をもって読むための指導や、「考えの形成」の学習過程での指導の現状や課題についての実態を把握した。〔令和６年度教育研究員（小学校国語）の所属校 10 校の教員 125 人に実施：実施期間　令和６年 11 月〕

(1)　児童が目的意識をもって課題に取り組むための工夫についての調査

質問（１）「読むこと」（説明的な文章）において、児童が目的をもって読むことができるように手だてを工夫していますか。（図１）

「単元ごとに必ず手だてを工夫している」、「単元に応じて、適宜手だてを工夫している」、「決まった手だてを講じており、単元に応じた工夫はほとんどしていない」と回答した割合は、図１のとおり、全体の 80.0%であった。８割の教員が、読みの目的をもたせるための手だてを講じていることが分かった。

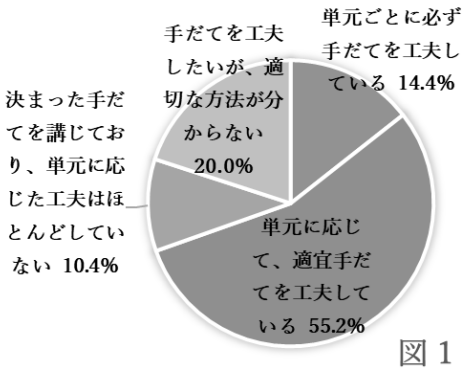

図１

質問（２）「読むこと」（説明的な文章）において、児童が目的をもって読むことができるようにするために、どのような手だてを工夫していますか。（記述回答）

回答内容		割合
目的意識を高めたり持続させたりする工夫 51.8%	単元のゴールを設定している	13.4%
	言語活動を明確にする	8.9%
	児童とめあてを作っている	8.9%
	着目する点を確認している	8.0%
	見通しをもたせている	6.3%
	読む動機付けを行っている	6.3%
目的を意識させる工夫 9.9%	単元のめあてを確認している	5.4%
	身に付けたい力を確認している	4.5%
その他 38.3%	文章を読み取るための手だてを確認している	26.8%
	ワークシートを工夫したり、デジタル機器を活用したりしている	8.9%
	その他	2.6%

記述での回答のうち、「単元のゴールを設定する」「言語活動を明確にする」等、読むための目的意識を高めたり持続させたりする手だてを工夫している教員は、回答全体の

51.8%であった。一方で、目的そのものを意識させる手だてを工夫している教員は、9.9%と低かった。また、文章を読み取るための手だての工夫を、目的をもって読むための工夫と捉えている教員が、26.8%であった。

このことから、多くの教員は、目的をもって読ませることの大切さを感じ、目的意識を高めたり持続させたりする手だてを講じていることが分かる。一方で、読む目的を児童が意識するような手だてが講じられていない可能性があると考えられる。

(2)　「考えの形成」を充実させるための工夫についての調査

質問（３）「読むこと」（説明的な文章）での自分の考えを形成する力を育てるために、手だてを工夫していますか。（図２）

「単元ごとに必ず手だてを工夫している」、「単元に応じて、適宜手だてを工夫している」と回答した割合は、図２のとおり、全体の 84.0%であった。８割を超える教員が、「考えの形成」のための手だてを工夫していることが分かった。

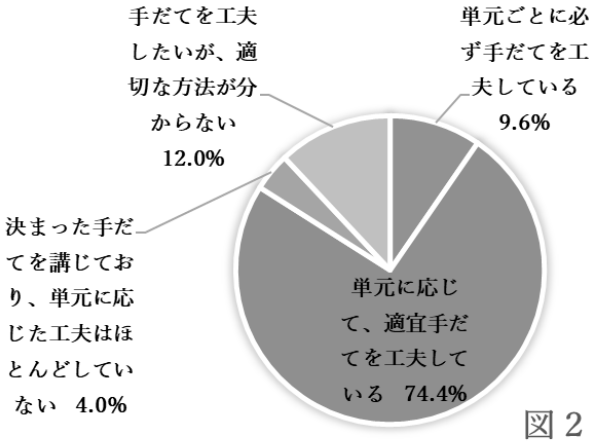

図２

質問（４）「読むこと」（説明的な文章において「考えの形成」について指導する上で、どのようなことを大切にしていますか。（３つまで選択可）

設問	割合
筆者の考えや主張を捉えやすくすること	53.6%
全体の文章構成を捉えやすくすること	50.9%
文章を読む目的意識をもてるようにすること	47.3%
友達の考えに触れられるようにすること	46.4%
事例や具体例を、筆者の考えや主張と関連付けて捉えやすくすること	36.4%
説明的な文章の内容と、児童の知識や体験が結び付けられるようにすること	27.3%

「筆者の考えや主張を捉えやすくすること」、「全体の文章構成を捉えやすくすること」など、文章を読み取るための手だてについての割合が高いことが分かった。一方で、「説明的な文章の内容と、児童の知識や体験が結び付けられるようにすること」については、27.3%と低かった。

以上の結果から、「自分の考えを形成する力」を育てるためには、児童が読む目的を意識しながら学習に取り組める環境を整えることが大切であると考えた。また、知識や体験と結び付けて考えられるようにするための指導の工夫が必要であると考えた。

３　検証授業

低学年(第１学年)

(1)　単元名　じどう車のしごととつくりを見つけよう

教材名「じどう車くらべ」

(2)　単元の目標

○　事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

〔知識及び技能〕(2)ア

○　事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア

○　文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

○　文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

○　言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

(3)　単元で取り上げる言語活動

自動車の「しごと」と「つくり」を説明した文章を読み、自分の知識や体験と結び付けて分かったことや考えたことを述べる。　(関連:〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)

(4)　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ) ③「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	①すすんで事柄の順序を考えながら文章中の重要な語や文について考え、学習課題に沿って自動車の「しごと」や「つくり」を説明しようとしている。

(5)　研究主題に迫るための手だて

ア　目的を意識しながら学習に取り組むための工夫

(ｱ)　児童にとって目的意識をもてる単元計画や言語活動の設定

本単元で身に付けた力を次単元に生かし、世界でたった一つの自動車図鑑をつくるために、「しごと」と「つくり」を見付けて読むという目的をもてるようにする。自動車図鑑をつくるという言語活動は、児童の反応として予想される「もっとたくさんの車を調べてみたい。」という思いを受けて設定したものである。作成した自動車図鑑はデジタル機器を利活用してデジタル図鑑にし、友達や家庭でも見てもらえるようにする。

本単元の言語活動は、教科書を読み、自分の知識や経験と結び付けて、分かったことや考えたことを述べることである。本単元への興味関心を高めるため、導入では写真を提示し、自動車クイズを行う。自動車の名前だけでなく、どんな「しごと」をする車なのか、同じ「しごと」をする車なのにどうして「つくり」が違うのかなど、「しごと」や

「つくり」の学習につながる問いかけを行う。また、家庭にあるお気に入りの乗り物の本やミニカーなどを持ち寄ったり、就学前教育施設で親しんだ「はたらく自動車」の歌なども紹介したりしていく。

本単元では、いろいろな自動車の「しごと」と「つくり」を見付けることを学習課題としている。「ぼくの家の車はどのようなつくりかな。」「夏休みに乗った２階建てバスはどのようなつくりかな。」などといった自分の体験に基づく疑問を大切にし、適宜紹介したり、図書資料等を活用して解決したりできるようにするなど、自分の知識や体験と結び付いた学習になるようにする。学習計画は教師が作成し、適宜児童と修正を行うようにする。

イ　「考えの形成」を充実させるための工夫

(ｱ)　既有の知識や体験と結び付けて考えるための視点の明確化

児童の実態に合わせ、学級全体で「分かったこと」を先に確認した上で、自分の感想を明確にしていく。「分かったこと」と感想を区別して、毎時間、図鑑や学習シートにまとめることを通して、段階的に考えの形成が行えるようにするとともに、事実と自分の考えを区別することの素地を養えるようにする。

感想の視点は、知識や体験と結び付けて考えるために、「見たり、体験したりして知っていること」として児童に示す。その際、段階的な指導として、児童に示した視点が意識して捉えられるようにするためのマークを併記する。これらの知識や実体験を入れることで、世界でたった一つの自動車図鑑になることを繰り返し指導していく。感想の視点は数をしぼりながら段階的に変え、感想の内容を豊かにしていく。

(ｲ)　既有の知識や体験を引き出すための資料の活用や場の設定

既有の知識を引き出すために、これまでの説明的な文章の学習の既習事項を掲示する。（板書記録・学習内容・学び方等）個人のもつ知識や経験を引き出し、主体的に学習を進められるように、ペアやグループでの交流を設定する。また、発達の段階に合った様々な自動車の図書資料を準備し、並行読書が充実するようにする。

「考えの形成」の学習過程では、既習の自動車の写真を複数枚用意する。これらを比較して気付いたことを新たな知識や体験としていく。実際に自動車に乗る体験を共有することは難しいが、写真や図書資料などに触れることで、知識や理解を一層深められるようにする。

(6)　学習指導計画（10 時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	○身近な自動車クイズをする。 ○本文を読み、初発の感想をまとめる。 ○学習課題をつかみ、単元の学習計画を立てる。	・初発の感想は、疑問や更に知りたいことを視点とするよう児童に伝える。 ・教師が作成した自動車図鑑のモデルを示し、見通しをもてるようにする。 ・図書資料を紹介し、学習への興味関心をもてるようにする。	
二	2	○バスと乗用車クイズをする。 ○「しごと」や「つくり」について書かれた文を見付ける。 ○バスと乗用車の自動車図鑑を全体でつくる。	・○×クイズをし、児童が問いと答えの対応関係を意識できるようにする。 ・「しごと」は赤、「つくり」は青で線を引くことや「つくり」は挿絵に丸を付けるよう指導する。	〔思考・判断・表現①〕 発言・観察・記述
	3・4	○トラック（クレーン車）クイズをする。 ○トラック（クレーン車）の自動車図鑑をつくる。 ○既習の自動車の取り上げられた順序について考える。	・「しごと」と「つくり」が対応しないクイズをし、児童が対応関係を意識できるようにする。 ・キーワードに着目して、「つくり」を選び出すことができるよう指導する。	〔思考・判断・表現②〕 発言・観察・記述 〔知識・技能①〕 発言・記述
三	5	○写真を見ながら本文を読んで、気付いたことを一人１台端末に書き込む。 ○分かったことを全体で確認する。 ○比べながら読んだ感想をまとめる。【考えの形成】	・筆者の考えが書かれている叙述に印を付けるよう指導する。 ・児童が学習形態を選択できるようにする。（個人・ペア・グループ・教員） ・自分が興味のある写真を使って、説明とその効果について、考えるように促す。	〔思考・判断・表現③〕 発言・観察・記述
	6	○情報の探し方やまとめ方を確かめ、はしご車の自動車図鑑をつくる。 ○作成したはしご車の図鑑を見せ合う。	・図書資料を活用しながら書くよう指導する。 ・グループで「しごと」に合った「つくり」になっているか確認するように指示する。	〔思考・判断・表現②〕 記述 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 観察・記述

中学年(第４学年)

(1)　単元名　中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう

教材名「未来につなぐ工芸品」

(2)　単元の目標

○　幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。〔知識及び技能〕(3)オ

○　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ

○　目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

○　文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

○　言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

(3)　単元で取り上げる言語活動

中心となる語や文を見付けて要約し、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ）

(4)　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3) オ)	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①すすんで目的を意識して中心となる語や文を見付け、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫を理解し、その工夫を使って、伝統工芸について調べて分かったことや考えたことを説明しようとしている。

(5)　研究主題に迫るための手だて

ア　目的を意識しながら学習に取り組むための工夫

(ｱ)　児童にとって目的意識をもてる単元計画や言語活動の設定

本単元は、次単元「『一人の職人』として工芸品のみりょくを伝えよう」と関連付けて行った。本単元では、筆者の説明の工夫の仕方を学習した後に文章を要約する。そして、次単元ではそれらの身に付けた力を、自分の調べた伝統工芸品の魅力を伝えるリーフレットづくりにおいて生かしていけるようにする。加えて、伝統文化について学習する単元がある第６学年との連携も図る。第４学年と第６学年がリーフレットなどの成果物の交流を通して、感想を伝え合う活動を設定する。これにより、自分の調べたことをどのようにまとめて伝えればよいかを強く意識し、本単元の学習への目的意識を一層高めることができると考えた。

また、次単元のリーフレットづくりで得た伝統工芸品に関する知識等を生かし、２回めの「考えの形成」を行うという単元計画とする。本単元の第３時で、筆者の主張に対して考えを形成する。しかし、伝統工芸品に対する知識や体験が十分ではないため、本

教材に挙げられた事例以外はよく分からないという児童も少なくない。そこで、関連する社会科の学習や次単元のリーフレットづくりを通して得た知識などを基に、第10時に２回目の本単元の「考えの形成」を行うことにより、児童は高い目的意識をもって次単元に臨めると考える。

このように、複合単元である特性を生かし、単元相互に関連付けた目的意識をもって学習に取り組めるよう単元計画を設定する。

イ　「考えの形成」を充実させるための工夫

(ｱ)　既有の知識や体験と結び付けて考えるための視点の明確化

本単元では、先に述べた通り、第３時に続いて第10時で２回めの考えの形成を行う。第３時では、筆者の主張に対して「自分の体験や既習の知識を基に」という視点で感想や考えをもつ。伝統工芸品に対する知識や体験があまり多くないため、児童は本教材の事例以外はよく分からないということを自覚することが予想できる。そこで、リーフレットづくりを終えた第10時の「考えの形成」を行う際は、筆者の主張について「調べたことで考えが深まったことを基に」という視点で考え直す。こうすることで、既習の内容と結び付けて自分の考えを形成できると感じられる児童を増やすことを目指す。また、２回目の「考えの形成」を行う際は、どのような視点で書けばよいかを児童とのやり取りの中から引き出して板書する。多くの情報を得た児童の思考を整理してから取り組めるようにする。

このように、本単元の特性を生かし、段階的な考えの形成を行うことで、児童が考えをより深められると考えた。

(ｲ)　既有の知識や体験を引き出すための資料の活用や場の設定

児童にとって伝統工芸品が身近ではないと考えられることから、社会科の伝統工芸品を扱う単元「『東京都の特色ある地域の様子』１　染め物のさかんな新宿区」と関連付ける。また、日本の伝統工芸品に関する図書資料を集め、いつでも手に取れるように教室に置く。さらに、朝学習の時間を活用し、図書資料の他、インターネット、新聞など、様々な情報源から伝統工芸品についての知識を得る機会を設定する。こうすることで、児童は本教材で扱われているもの以外の伝統工芸品についての知識を深められる。そして、幅広い視点から得た情報を考えの形成に生かすことができると考えた。これらの手だてを通じて、児童が既存の知識や体験を活用した考えの形成をより一層充実させていくことを目指す。

(6)　学習指導計画（12 時間扱い）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>学習活動</th><th>指導上の留意点</th><th>評価規準と評価方法</th></tr>
<tr><td>一</td><td>1</td><td>○教科書の題名や挿絵から教材文への興味を高め、単元全体の流れを把握する。
○「未来につなぐ工芸品」を読み学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。</td><td>・「読むこと」の学習を生かして、リーフレットをつくることを押さえ、見通しがもてるようにする。
・工芸品にどのような魅力を感じたかとその理由を取り上げ、児童それぞれの問いを引き出す。</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">二</td><td>2</td><td>○文章をまとまりに分け、筆者の伝えたいことを捉える。
○「中」で挙げられている例と、その役割を確かめる。</td><td>・筆者の主張が書かれている叙述に印を付けるよう促す。
・写真を使った説明効果について考えるよう指導する。</td><td rowspan="3">〔知識・技能①〕
<u>ワークシート・観察</u>

〔思考・判断・表現①〕
<u>ワークシート・観察</u>

〔主体的に学習に取り組む態度①〕
<u>ワークシート・観察</u></td></tr>
<tr><td>3</td><td>○「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに、中心となる語や文を見付け、要約する。
○筆者の主張について考えたことを、ワークシートにまとめる。

【考えの形成１回め】</td><td>・筆者の伝えようとしていることを捉えるために、考えと事例との関係を明らかにするよう促す。
・要約することで捉えた筆者の主張に対して体験や知識を基にして、自分の考えを明らかにしていくよう指導する。</td></tr>
<tr><td>4</td><td>○工芸品に関する資料や図鑑を読み、内容を友達に知らせる。</td><td>・リーフレットに書く工芸品を選ぶために読むことを、目的に設定する。</td></tr>
<tr><td>三</td><td>１０</td><td>○「未来につなぐ工芸品」において、筆者の主張について改めて考えたことを、ワークシートにまとめる。
【考えの形成２回め】</td><td>・自分の体験や知識を基に、筆者の主張に対しての、自分の考えを改めて明らかにする。</td><td>〔思考・判断・表現②〕
<u>ワークシート・観察</u></td></tr>
</table>

高学年(第６学年)

(1)　単元名　「発見！みりょくの発信法　～私もみりょくを伝えます～」
　　教材名　「『鳥獣戯画』を読む」　高畑 勲

(2)　単元の目標

○　比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。　〔知識及び技能〕(1)ク

○　事実と感想、意見などとの関係について叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア

○　目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ

○　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

○　言葉がもつよさを認識するとともに、すすんで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

(3)　単元で取り上げる言語活動
文章を読んで見付けた筆者の表現の工夫を生かし、パンフレットを書く。
（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア）

(4)　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ②「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を基に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	①日本文化の魅力を発信するという見通しをもち、文章を読んで書きぶりの工夫を見付けたり、その良さについて考えたりすることに粘り強く取り組んでいる。

(5)　研究主題に迫るための手だて

ア　目的を意識しながら学習に取り組むための工夫

(ｱ)　児童にとって目的意識をもてる単元計画や言語活動の設定

本単元の初めに、児童に「読むこと」と「書くこと」の複合単元であることを伝え、見通しをもって学習することができるようにする。本単元では、筆者のものの見方や考え方、論の進め方を捉えて読むことに重点を置く。筆者の書きぶりの工夫について着目したことや自分の考えを伝え合うことで、具体的な表現方法に気付いたり、互いの考えを広げたりすることが目的であることを、単元を通して児童に意識付けを行う。

また、次単元「発見、日本文化のみりょく」の書くことの学習と関連付けた学習過程

を組み、パンフレットを書くために、本教材において筆者の書きぶりの工夫を見付けるという目的意識をもたせるようにする。「発見、日本文化のみりょく」では、興味をもった日本文化についてテーマをしぼって調べたり考えたりしたことについて、パンフレットに書きまとめるという言語活動を設定する。

学習計画は初読の感想を基に、児童と話し合いながら作成する。本単元では、筆者の書きぶりの工夫について考えをまとめることを目指して、毎時間の学習課題を明確にする。計画を立てる際に、次単元を見通した単元の目標や言語活動を確認し、児童が見通しをもって学習するための手だてとする。

イ　「考えの形成」を充実させるための工夫

(ｱ)　知識や体験と結び付けて考えるための視点の明確化

考えの形成を行う際には、学習課題として「筆者の表現の工夫の中で、特に効果的だと思うもの」について考える。筆者の表現の工夫で特に効果的だと思うものを選び、その理由をまとめる際に、既有の知識や体験と結び付けながら考えさせるようにする。効果と理由を明確に考えることで、自分が文章を書くときにその工夫を使ってみたいと思えるようになり、書くことへの学習の意欲も高まると考える。理由をまとめる際には、前時までに話し合ったことを掲示物として黒板に可視化し、既習の内容を想起しやすいようにする。また、取り上げた筆者の書きぶりの工夫に対し、自分が実感を伴って体験したことなどを想起させる。その際、児童の発言や文章の中から例を取り上げて視点を明確にする。

(ｲ)　既有の知識や体験を引き出すための資料の活用や場の設定

他教科との関連も含め、児童が体験的に日本文化に触れることができるような場を設定する。本単元の学習の導入時には、「鳥獣戯画」のレプリカ絵巻を提示して、絵巻物のイメージをもって作品と出合う場を設ける。また、筆者以外の鑑賞文や日本文化に関連する図書資料を複数用意する。並行読書を通して、作品への見方や考え方、表現方法も多様であることに気付かせるための手だてとする。歴史的な背景と結び付けて考えることができるよう、社会科の学習も計画的に進めていく。前単元の「柿山伏」の学習では、能楽師や狂言師による体験活動の場も設定し、日本文化への関心を広げる。図画工作科においても、児童一人一人が想像した『鳥獣戯画』を描く学習を設定し、教科横断的な学習を位置付ける。

(6)　学習指導計画（6 時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	○「鳥獣戯画」に関する資料を提示し、作品に対して気付いたことを話し合う。 ○教材文を読み、感想を基に学習計画を立てる。	・「鳥獣戯画」のレプリカ絵巻を見せ、児童が作品自体に関心をもつことができるようにする。 ・教材文を読み、魅力が伝わってくると思ったことについて話し合うよう指導する。 ・「鳥獣戯画」について書かれた資料や動画を紹介することで作品への見方や考え方、表現方法も多様であることを促す。	
二	2	○教材文の絵と文章を照らし合わせ、筆者の評価を捉える。 ○自分の絵の評価について話し合う。	・筆者が絵のどのような部分を取り上げ、何に着目しているのか整理できるよう助言する。 ・筆者が着目した絵に対し、自分が考えたことと筆者の作品に対する評価を比較できるよう促す。	〔知識・技能①〕 ワークシート・観察 〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・観察
	3	○筆者のものの見方や伝える工夫について気付いたことをまとめる。 ○筆者と自分の見方について比較する。	・説明文の要旨を捉え、「筆者から受け取ったこと」について納得度をスケールで可視化し、話し合うことができるよう指導する。	〔思考・判断・表現②〕 ワークシート・観察
	4	○筆者の書きぶりの工夫の効果（論の進め方・表現の工夫･絵の示し方など）を捉える。	・筆者の書きぶりの工夫を捉え読み手として魅力が伝わってきた度合いをスケールを使って可視化し、話し合うことができるよう指導する。	〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・観察
	5	○筆者の工夫について取り上げ、理由とともに自分の考えをまとめる。 【考えの形成】	・筆者の工夫の中で特に効果的だと思った点を、理由（既有の知識や経験も含む）とともにまとめることができるよう指導する。 ・デジタル機器を活用し、推敲や手順や進度を可視化し、児童が円滑に取り組めるよう助言する。	〔思考・判断・表現③〕 ワークシート・観察
三	6	○前時にまとめた考えを共有する。 ○次単元の学習の見通しをもつ。	・児童が考えを共有し、「発見、日本文化のみりょく」で活用したい、筆者の書きぶりの工夫を整理できるよう助言する。	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ワークシート・観察

Ⅵ　研究のまとめ

１　検証授業について

	視点１　目的を意識しながら学習に取り組むための工夫	視点２　「考えの形成」を充実させるための工夫
低学年	○児童の思いを大切にした言語活動を設定したことで、「自動車の『しごと』と『つくり』を見付けて図鑑をつくる」という目的を明確にし、児童は見通しをもち学習することができた。 ○教材との出合わせ方を工夫したり、児童の体験や疑問を適宜紹介したりすることで目的意識を継続しながら読み進めることができた。	○記号を併記して感想の視点を提示することで、自分の知識や体験と結び付けて感想をもつことができた。児童が学習形態を選択した話合いを通して、考えを全員がもつことができた。 ○異なる知識や経験をもつ児童でも、教材に関係した具体物や資料を使うことで、想像力を生かして学びを深めることができた。
中学年	○教材文を要約することで筆者の考えを理解し、自分たちも「一人の職人」になって工芸品の魅力を伝えるためにリーフレットづくりを行うという目的を達成することができた。 ○６年生と成果物を読み合い、感想を伝え合う活動を行うことで、相手意識をもってリーフレットを作成することができた。	○第 10 時の「考えの形成」の際、筆者の考えを板書し、児童が考えをまとめる際の手掛かりとするとともに、児童から他の視点も引き出したことで、視点に沿う考えをもつことができた。 ○社会科との関連を図ったり、図書資料を並行読書したりすることを通して、既有の知識を増やしたことで、体験や既習の内容と結び付けて自分の考えを形成することが更にできた。
高学年	○児童と教材との出合いを工夫することや具体物を提示することは、児童の読みたいという意欲を高め、教材がより身近になることが分かった。 ○日本文化についてパンフレットを書くという目的を見据えて児童と学習計画を組み立てることで、読む目的が意識され、主体的に取り組むことができた。	○単元を通して学びを可視化することで、児童にとっては、前時に共有したこと（掲示物）が手だてとなり、何を考えるかを明確にすることができた。 ○カリキュラム・マネジメントの視点で単元計画を作成することにより、児童が日本文化に幅広く関心をもち学習意欲が持続した。

２　成果と課題について

(1)　成果

・説明的な文章を読む学習において、目的を意識しながら学習に取り組むことができるよう言語活動の設定や単元計画を工夫することで、児童は主体的に文章を読み、自分の考えを形成することができた。また、既有の知識や体験を引き出すための資料の活用や場の設定を行うことによって、児童それぞれの知識や体験の差を少しでも埋めることができ、主体的な考えの形成につながった。

(2)　課題

・考えの形成をする際の視点や、資料の活用の仕方について、段階的にどのように関連付けて系統化することがよいのかを示す必要がある。

・設定した言語活動が、児童にとって目的意識をもつための手だてとなっていたか、さらに吟味する必要がある。

令和６年度　教育研究員名簿

小学校・国語

学　校　名	職　名	氏　名
中央区立有馬小学校	主任教諭	大木戸　冬弥
墨田区立二葉小学校	主任教諭	中原　里美
江東区立第三大島小学校	主任教諭	望月　美香
品川区立日野学園	主任教諭	◎髙柳　裕子
北区立西ケ原小学校	主任教諭	小池　隆之
荒川区立尾久小学校	主幹教諭	大井川　今日子
武蔵野市立第五小学校	主任教諭	伊藤　正枝
調布市立北ノ台小学校	主任教諭	佐々木　加奈子
国分寺市立第一小学校	主任教諭	水野　秀紀
あきる野市立前田小学校	主任教諭	犬伏　克代

◎　世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事　中嶋　康彦

令和６年度

教育研究員研究報告書
小学校・国語

令和７年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９